

平成24年2月28日
総合評価方式の活用・改善等による
品質確保に関する懇談会

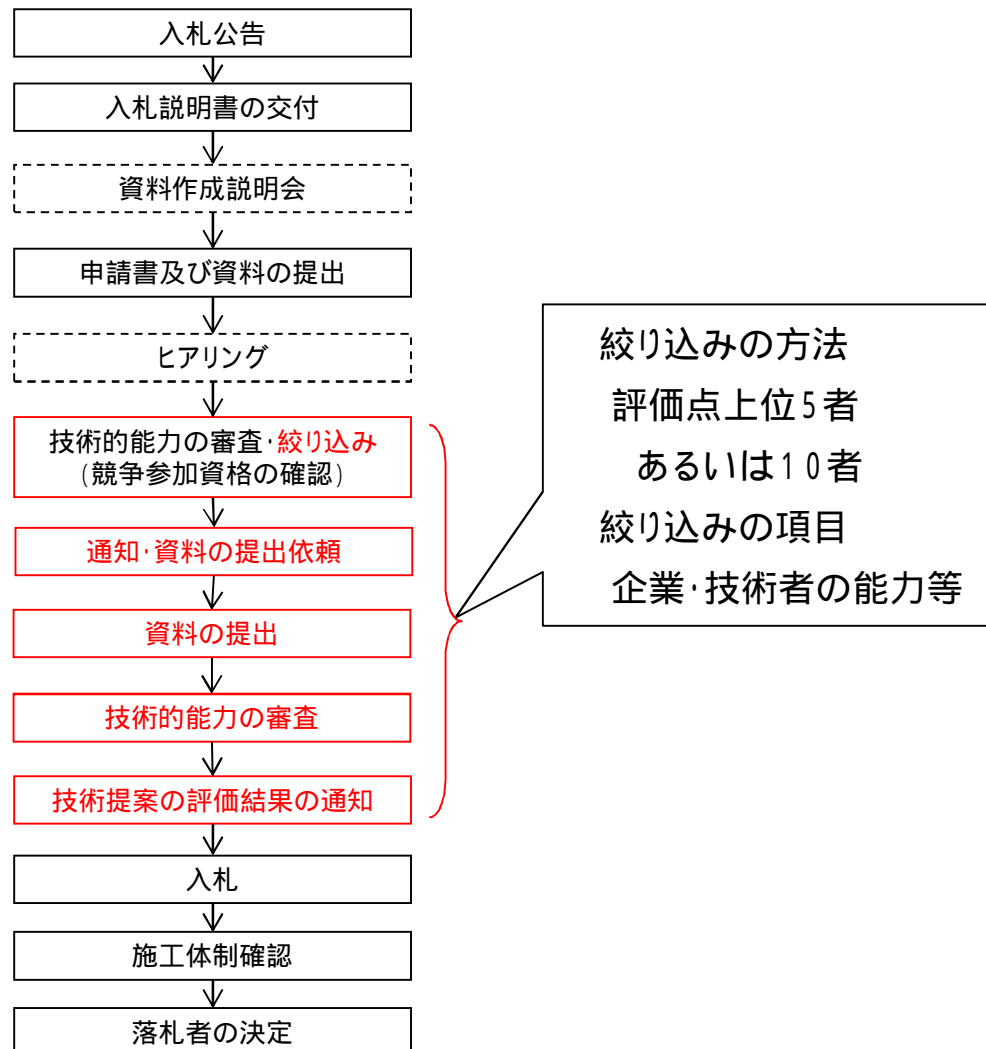
資料3 - 1

段階選抜方式の実施状況

段階選抜方式の試行について

入札参加者の技術提案の負担の軽減等を図る観点から、総合評価落札方式における段階選抜方式の試行を平成23年度において23件予定している。

段階選抜方式を採用したフロー



平成23年度試行工事の概要 (平成23年度公告案件)

地整	件数	工事の概要
北海道	5件	一般土木
東北	1件	PC
関東	5件 (1件)	鋼橋上部、PC
中部	1件 (1件)	鋼橋上部
近畿	3件 (3件)	一般土木、鋼橋上部
中国	2件	鋼橋上部
四国	1件	鋼橋上部
九州	1件	PC
沖縄	4件 (3件)	一般土木、法面処理
合計	23件 (8件)	

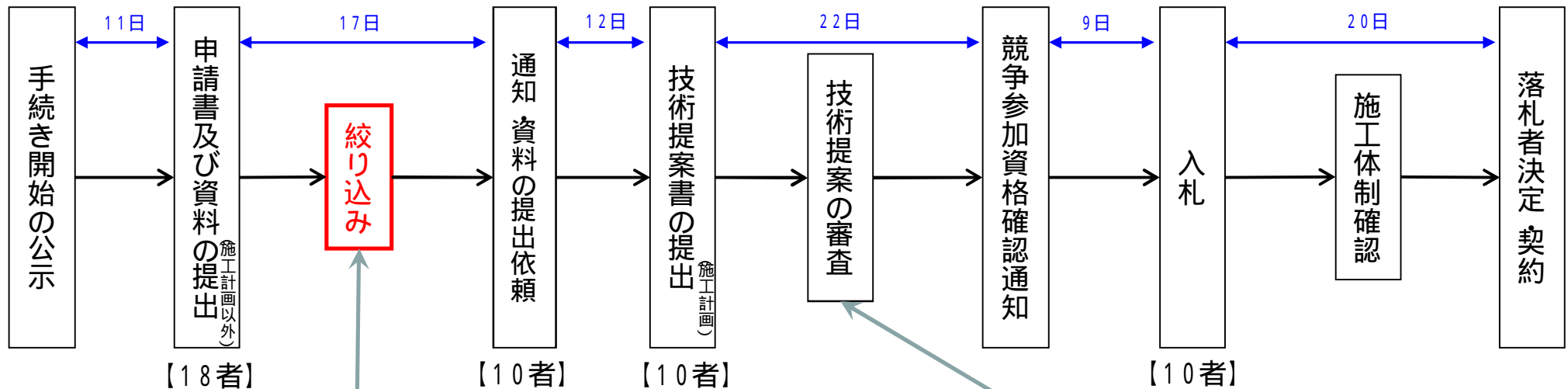
()は予定・手続中の件数

段階選抜方式の試行事例

工事概要

工事名	圏央道東高架橋上部その6工事						地整	関東地整	
工種	鋼橋上部	WTO	-	総合評価	標準型	公告日	H23.8.25	契約日	H23.11.24
主な工事内容	鋼6径間連続少数鉸桁橋(L=241m)								

手続きの流れ



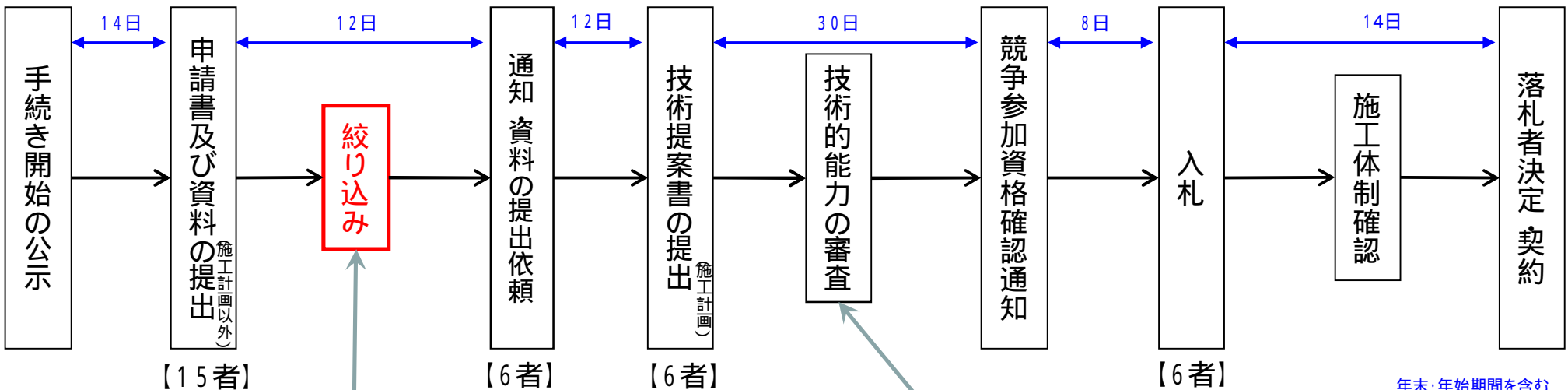
1段階目の評価項目詳細 (選抜者数: 上位10者)	企業の技術力 (47点)	成績(10点)、表彰(10点)、成績優秀企業(10点)、優良下請活用(6点)、難工事(9点)、手持工事(2点)	2段階目の評価項目詳細	技術提案 (60点)	施工計画 (60点)
	企業の信頼性社会性(12点)	近隣施工実績(2点)、緊急時施工体制(2点)、災害協定(3点)、災害活動実績(3点)、事業継続力認定(1点)、ボランティア活動(1点)			
	技術者(14点)	成績(5点)、表彰(10点)、CPD(1点)			

段階選抜方式の試行事例

工事概要

工事名	圏央道神崎高架橋上部工事(契約前)							地整	関東地整
工種	鋼橋上部	WTO	-	総合評価	標準型	公示日	H23.11.11	契約日	H24.2.13
主な工事内容	鋼4径間連続少数钣桁橋(L=163m)								

手続きの流れ



1段階目の評価 項目詳細 (選抜者数:上位5者)	企業(20点)	施工実績(10点) 成績(10点)
	技術者(56点)	施工経験(25点(3項目)) 表彰(5点) CPD(1点) 成績(20点)

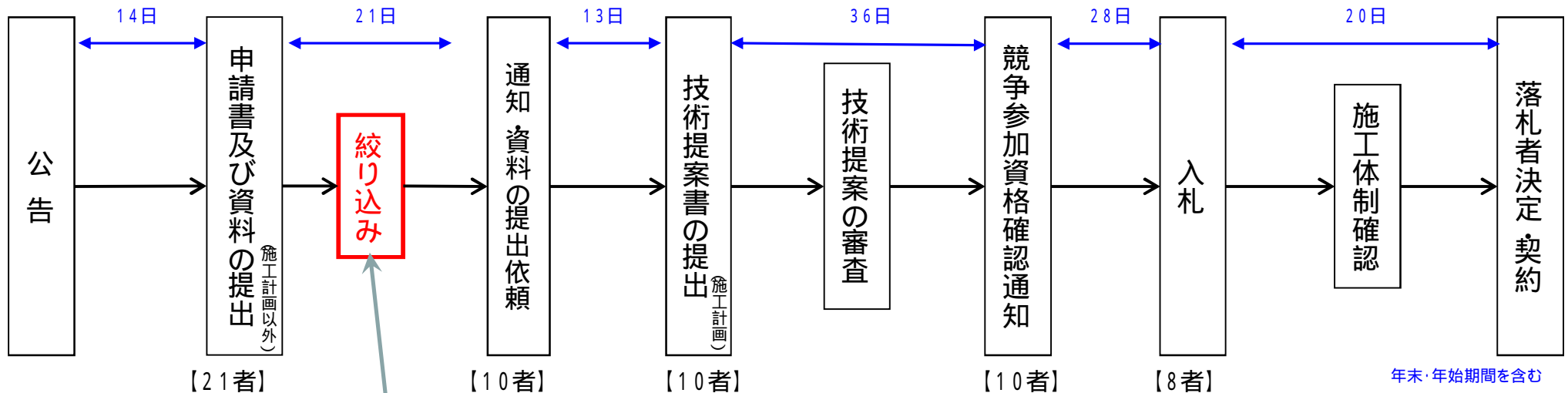
2段階目の評価 項目詳細	技術提案 (60点)	施工計画(60点)
-----------------	---------------	-----------

段階選抜方式の試行事例

工事概要

工事名	鳥取西道路野坂川橋鋼上部工事						地整	中国地整
工種	鋼橋上部	WTO	総合評価	標準型	公示日	H23.10.25	契約日	H24.3月上旬
主な工事内容	橋長L = 176m、上部工型式 鋼4径間連続非合成少数钣桁橋 W = 660t							

手続きの流れ



1段階目の評価 項目詳細 (選抜者数: 10 者)	企業 (7.0点)	実績 (1.0点)、成績 (6.0 点)
	技術者 (5.0 点)	実績 (1.0点)、成績 (4.0 点)

2段階目の評価 項目詳細	技術提案 (30点)	品質の向上に関する施工 計画(30点)
-----------------	---------------	------------------------

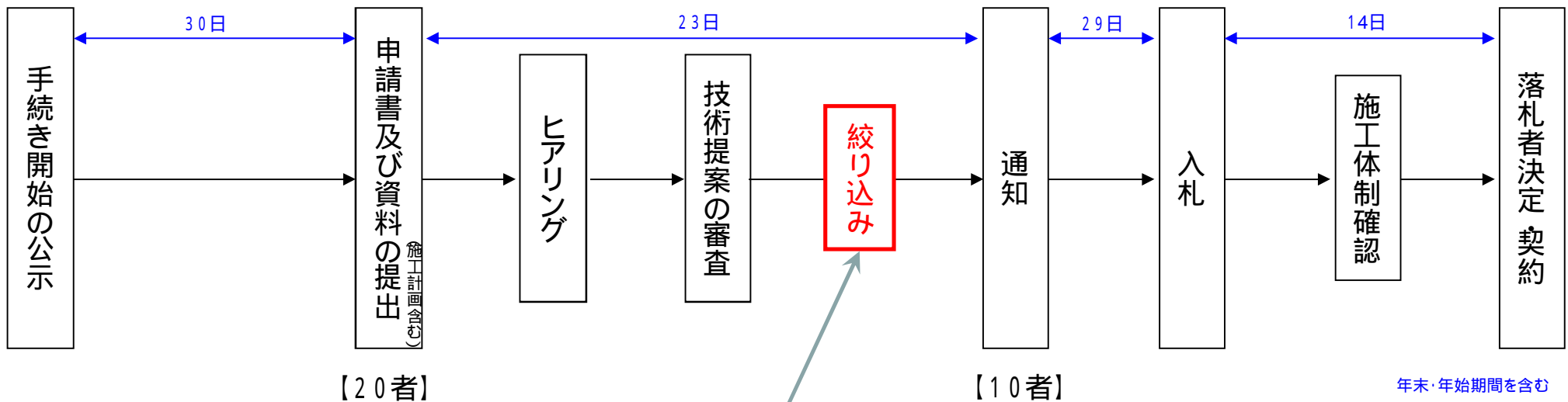
海外企業の扱 い	国内実績のない外国籍企業が国外で の施工実績により参加する場合、中国 地方整備局総合評価審査委員会にお いて審査の上、求めた工事实績として 妥当と判断された場合、選抜者に加え る。	
-------------	---	--

段階選抜方式の試行事例

工事概要

工事名	東九州道(鹿屋～曾於)大鳥川橋上部工工事						地整	九州地整
工種	PC	WTO	総合評価	標準型	公示日	H23.12.16	契約日	H24.3.9
主な工事内容	PC3径間連続ラーメン箱桁橋(L=292m)							

手続きの流れ



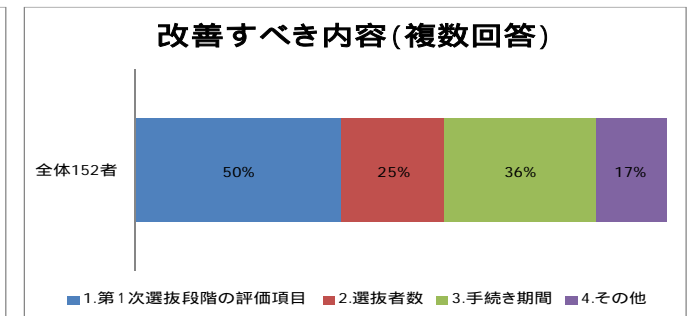
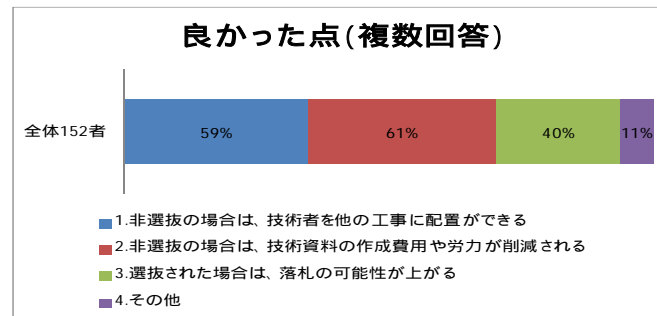
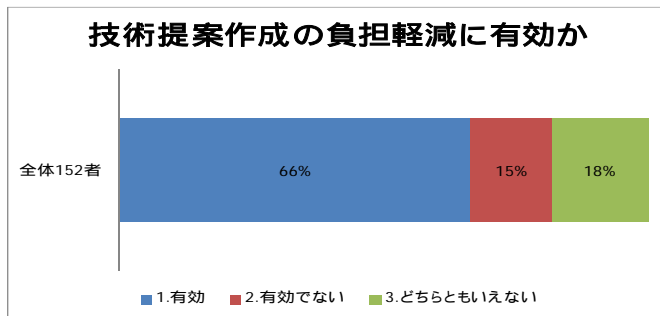
1段階目の評価項目詳細 (選抜者数:10者)	技術提案 (60点)	工事目的物の性能・機能に関する事項(34点) 社会的要請に関する事項(11点) 総合的なコストに関する事項及び施工計画(15点)
---------------------------	---------------	--

海外企業の扱い	国内企業と同等に評価
---------	------------

段階選抜方式の効果検証(競争参加者)

【競争参加者】回答者 14工事、152者(重複あり)

- 延べ152の回答者のうち、段階選抜方式は「技術提案書作成の負担軽減に有効」を選択したのが66%(101者)、「有効でない」が15%(23者)、「どちらとも言えない」が18%(28者)となっている。
- 良かった点としては、「技術者を他の工事に配置できる」が59%(90者)、「技術資料の作成費用や労力が削減される」が61%(92者)、「落札の可能性が上がる」が40%(61者)となった。
- 改善すべき点としては「1次選抜段階の評価項目」が50%(76者)で最も多く、以下、「手続き期間の短縮」が36%(55者)、「選抜者数」が25%(38者)となっている。
- 非選抜時の技術提案の負担軽減や、配置予定技術者の拘束解除等の観点から有効であるとの意見が多い一方で、課題として選抜者の固定化回避、評価項目、手続き期間の短縮や効率化などが指摘されている。



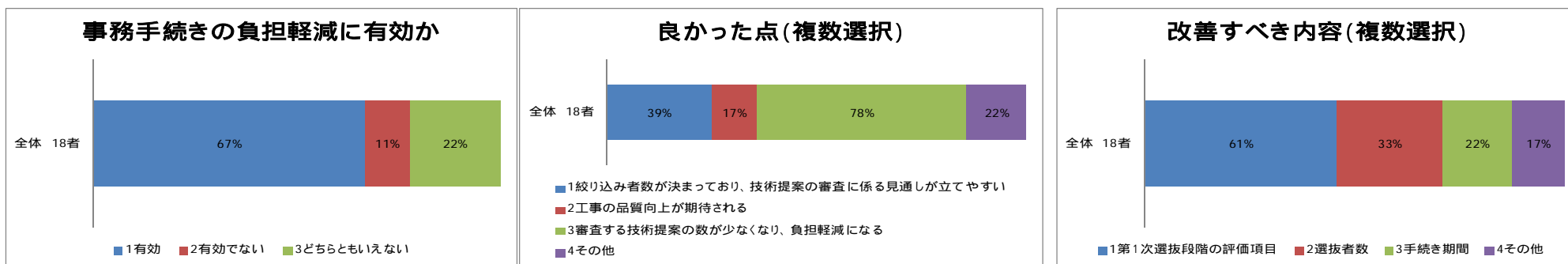
【主な自由意見】

- 一次審査において、企業の施工実績、配置予定技術者の能力で選抜を行うと、選抜されるメンバーの固定化が懸念されます。
- 段階選抜方式については、WTO等の大型物件を中心に適用して行くべきではないかと考えます。
- 最も時間を要する技術提案作成の軽減を図ること、並びに工事の遂行にとって最も重要な品質確保をより良い形で達成するため、施工実績・工事評価を評価項目とする段階選抜方式が採用されることを希望いたします。
- 第1段階までは、入札ごとに変動しない評価項目を事前登録することにより、発注工事ごとに作成及び審査していた業務を軽減化できると考えます。
- 競争参加資格確認通知の決定日を1週間程度に短縮して頂ければ、技術者を他の工事に有効に配置することが出来ます。
- 一次審査結果における評価点の内訳については、一次審査結果後に公表いただきますようお願いいたします。
- 第2段階の提出資料は現在郵送となっておりますが、電子入札システムでの提出を検討願います。

段階選抜方式の効果検証(発注者)

【発注者】回答者 13工事 18者(重複なし)

- ・18の回答者のうち、段階選抜が「事務手続きの負担軽減に有効」を選択したのが67%(12者)、「有効でない」が11%(2者)、「どちらとも言えない」が22%(3者)であった。
- ・良かった点として、「負担軽減」が78%(14者)で最大、「技術提案の審査に係る見通しが立てやすい」が39%(7者)、「工事の品質向上」が17%(3者)である。
- ・改善すべき内容として、「第1次選抜段階の評価項目」が61%(11者)、「選抜者数」が33%(6者)、「手続き期間」が22%(4者)であった。
- ・事務手続きの負担軽減に有効との意見が多い一方、電子入札システムの改良や手続き期間の短縮による更なる事務の効率化に対する意見や、1次選抜結果の公表に係る事務作業量の増大に対する懸念の意見もあった。
- ・また、不調の懸念や、WTOにおける海外企業の取扱い、全国の成績を扱えるデータベースの整備等の課題も指摘された。



【主な自由意見】

- ・絞り込み過ぎると不調となる懸念もあり、10者程度が妥当か。
- ・全国の工事成績データベースの構築が必要。
- ・外国企業の取り扱い方法について検討を行う必要がある。
- ・通常の手続きに比べて審査期間が長くなることから、手続き期間の短縮について検討を行う必要がある。
- ・電子入札システムの改良が必要。
- ・評価結果の公表内容(一次選抜時点の評価と落札決定時点)について全国標準が必要と思われる。
- ・今後、企業の要望等で「一次選抜結果の通知」も、行うようになれば、その事務作業量が増加する恐れがある。
- ・技術提案の評価による選抜方法では双方の負担は減らなかったため、第1段階での評価項目を再検討する必要がある。